

予防接種の前に必ず読んでください(説明書)

1. 風しんの症状について

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発しん、発熱、首の後ろのリンパ節が腫れるなどが主な症状として現れます。そのほか、眼球結膜炎の充血もみられます。発しんも熱も3日間程度で治ることが多いので「3日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は風しん患者約3,000人に1人、脳炎は風しん患者約6,000人に1人ほどの割合です。大人になってからかかると子どもの時より重症化する傾向が見られます。

妊婦が妊娠早期に風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる先天性の心臓病、白内障、聴力障害などの障がいを持った赤ちゃんが生まれる可能性が高くなります。

2. 予防接種の効果と副反応について

予防接種を受けた方のうち、95%以上が免疫を獲得することができます。ただし、予防接種により、軽い副反応がみられることがあります。また、極めてまれですが、重い副反応が起こることがあります。予防接種後に見られる反応としては、下記のとおりです。疑問があれば、接種した医療機関に相談してください。

①風しんワクチンの主な副反応(風しんワクチン単独接種の際にお読みください)

主な副反応は、発しん、じんましん、紅斑、かゆみ、発熱、リンパ節の腫れ、関節痛などが認められています。

まれに生じる重い副反応としては、ショック、アナフィラキシー様症状があります。また100万人に1人程度に急性血小板減少性紫斑病が報告されています。

②麻しん風しん混合(MR)ワクチン(麻しんと風しんの予防接種を同時に実施する時に使用)の主な副反応

主な副反応は、発熱(接種した者のうち20%程度)や、発しん(接種した者のうち10%程度)です。これらの症状は、接種後5～14日の間に多くみられます。接種直後から翌日に過敏症状と考えられる発熱、発しん、かゆみなどがみられることがあります。これらの症状は通常1～3日でおさまります。ときに、接種部位の発赤、腫れ、しこり、リンパ節の腫れなどがみられることがあります。いずれも一過性で数日中に消失します。

まれに生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)、急性血小板減少性紫斑病(紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等)、脳炎及びけいれん等が報告されています。

3. 予防接種による健康被害救済制度について

この予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、町が加入する保険の他、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることになります。

4. 接種に当たっての注意事項

以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ①明らかに発熱(通常37.5℃以上をいいます)を呈している場合
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
- ④現在、妊娠している場合
- ⑤その他、医師が不当な状況と判断した場合

5. 接種後の注意事項

- ・接種当日は、激しい運動は避けてください。
- ・接種後2～3週間は、上記の副反応の出現に注意してください。心配がありましたら医師にご相談ください。
- ・女性の方は、この予防接種後2か月間は妊娠しないように注意してください。